修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
東京都千代田区西神田
2丁目8－7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）3－36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。
（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

第20回

修学旅行研究発表会ひらく

関修委・全修協

真剣な討議を展開

全員参加と問題行動生徒

関東地区公立中学校修学旅行委員会（滝嶋壮三会長・川越市立川越第一中学校長）と財団法人全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）との共催による第二十回修学旅行研究発表会は、栃木県教育委員会、県市町村教委連絡協議会、県中学校長会の後援で去る一月二十八日（火）、宇都宮市「くろかみ荘」に、約一〇〇名の教職員が参加し、熱心な研究を行った。

当日は大寒のさ中であり、北関東の冷えこみは氷点下九度近くにも達したにもかかわらず、マイクロバスを利用して乗りつけたグループもあり、会場は関東各県の教職員の熱気に包まれた。

研究発表会は十時に始まり、小林理一氏（小山市立第三中学校長）が司会し、小林春雄氏（河内郡上三川町立明治中学校長）の開会の辞、滝嶋会長、（財）全修協山本理事長に代って白滝専務理事の主催者の挨拶、来賓祝辞として県教育長池嶋和雄氏代理阿部豊氏（県教委義務教育課長）、県中学校長会長加賀美静男氏（宇都宮市立一条中学校長）、県連合教育会長梅沢茂氏代理大根田光男氏（同会庶務部長）の三氏の祝辞があり、続いて大関三良氏（宇都宮市立雀宮中学校長）から伊藤守氏（元関修委運営委員長）、高藤常松氏（元関修委会長）、野口周男氏（県教委義務教育課指導主事）の来賓各位の紹介があり、文部省教科調査官高橋哲夫氏からの「ご盛会を祝し、ご発表を祈る」との祝電を披露して、研究発表（別掲）に移った。

松本三郎氏（下都賀郡壬生町立壬生中学校長）の発表は県下の実態を緻密に調査し、この集計結果から重点的に焦点をしぼって問題点を指摘し、これの克服への道程から、課題である望ましい修学旅行のあり方としては、「何のための修学旅行なのか」と常に見直しつつ生徒の自主性を生かすことを前提に、総合学習の場とし、自己啓発の機会としての修学旅行を実現することによって、果されるであろうと結んだ。

片山悦男氏（宇都宮市立宝木中学校長）の発表は、生徒の自主性の啓発を促すグループ行動を中心とした修学旅行の実施に、周到な計画の下に一歩一歩築きあげた過程を、要所に校長としての感想を交えて語り、新しい視点に立った修学旅行のあり方に、先導的な一石を投じた。

多数の参加者を集めた修学旅行研究発表会

よりよい修学旅行のあり方を求めて

——グループ、学級単位の行動を生かした修学旅行——

宇都宮市立宝木中学校長　片山悦男

従来の本校の修学旅行は学年で京都・奈良を見学したが、学習、行動面で盛り上りに欠けた。

本年度より全人教育の立場から、生徒自ら学びとる力を基本とし、京都、飛鳥をグループ、クラス単位で行動する修学旅行にふみきった。飛鳥は日本古代文化発祥の地であり、宝木の自然にも類似しているからである。

事前準備は四つの学校教育目標との関連を図り、文部省格技指導推進校としての指導の重点を応用し、学校行事、学習指導を通じ自主性の啓発に努めた。

事前調査、事前指導は、特に日本史の学習、グループ行動に伴う諸知識の習得を重視した。

実施の記録

第一日13：00～17：00
京都市内グループ毎見学行動

第二日奈良・飛鳥方面、飛鳥までクラス毎バス、飛鳥貸自転車

第三日8：00～12：00
クラス毎バスで京都市内見学

事後指導では感想文がきめ細かくなり、また自分たちの力での班行動がよいとした点である。この体験は生徒にとっては、事後の生活の中で大きな自信となって実った。グループ活動は三ヵ年を通じた学校行事、授業中の訓練などによって育成されるものとの感を再確認した。

今後の修学旅行のあり方については、最近発表の臨教審報告21世紀に向けての教育目標①ひろい心と豊かな創造力②自主・自律の精神③世界の中の日本人が大きなよりどころとなるであろう。

本県の修学旅行の現状と課題

栃木県下都賀郡壬生町立壬生中学校長　松本三郎

この発表は、栃木県中学校長会修学旅行部会が県下の実態を把握し、修学旅行の改善向上を図るため、昭和六十年度実施の修学旅行について悉皆調査し、結果をまとめたものである。

この調査は「生徒の主体性を高めるための指導の参考となる」ことをねらいとして、調査項目は三十あり、選択肢制と自由記入の二方法で調査した。

限られた紙面なので、要約して現在の本県の修学旅行のあり方や問題点の中から今後のあり方をについて見通しを立てたい。

これについて修学旅行の成果は生徒の修学旅行に対する問題意識とかかわるものであり、何を期待して実施するかをよく考えて実施すべきであり、ただ漠然と総合学習といっても焦点がぼけてしまうとの意見もあり、また二年生のとき「市内史跡めぐり」を実施し、修学旅行の集団行動の訓練をした結果、ⓐ班や学級の集団行動、ⓑ使用した場所の整理整頓、ⓒ目的意識をもった見学態度、等の成果がみられたとの報告もある。

このような報告は本県の修学旅行が近年各学校で見直しされつつあることを示す証である。

本調査でも修学旅行が生徒の自主性を生かす方向に改善されつつある傾向がよみとれる。今後は「生徒による修学旅行」をめざし、研究の進展を図りたい。

（この実態調査の集計結果については、三面に掲載しましたのでご参照下さい。——編集部）

創立30周年記念総会開催　全修協

財団法人全国修学旅行研究協会の創立三十周年記念総会は、つぎの日程で開催される。

・日時　昭和六十一年三月十一日（火）
十四時～十五時　記念総会
十五時十五分～十六時三十分　記念式典
十七時～十八時三十分　祝賀会
・会場　都ホテル東京
東京都港区白金台一－一－五〇
☎（〇三）四四七－三一一一

真剣な討議（1月28日、宇都宮「くろかみ荘」）

研究協議は、時田登氏（足利市立北中学校長）を議長とし、先ず問題行動生徒の修学旅行参加の是非について討議が深まり、この事実に直面した学校長が、あくまでも参加させることを前提に指導した苦心談や、東京都町田市立忠生中の不参加者が出た事例などが示され、結論として、全員参加をたてまえに、厳しく、ねばり強く指導することが、事後にも好結果をもたらすとの、参加者全員による合意に到達した。

このほか、班編成と学年編成替の関係、班行動に対する事前指導、京都の古都税をめぐる今後の見通し、東北方面のグループ行動等に真剣な討議がなされ、県教委指導主事野口周男氏から、松本校長の発表は県下の実態を正確にとらえ、各校での努力の様子がよく理解でき、行政としてやるべきことは身をもって受け止めたいと述べ、片山校長の発表は生徒の自主性を伸ばす修学旅行のあり方に大きな示唆を与えたと確信し、両者共に今後の望ましい修学旅行のあり方に適切な教訓を多く含んでいる、との講評があった。

県中学校長会修学旅行部長滝田潔氏（宇都宮市立横川中学校長）の、この発表会をバネとし、生徒が完全燃焼する修学旅行をめざして共に前進しようとの力強いことばで、十二時三十分閉会した。

風紋

警察庁の発表によると、「五十九年いったん減少した少年非行は六十年には再増加、特に窃盗犯が十三万一千四百三人、全体の七割強、その中でも万引き、オートバイ盗、自転車盗の初発型は十一万一千三百五十一人、対前年同期二千二人（一・八％）の増となり、少年非行の総量を押し上げている（教育新聞）▼私の経験だが、新設校創立当初三年間は生徒たちも〝私たちの学校づくり〟に燃え、進路指導も順調に、非行的傾向はおよそ見られなかった。四年目に学校も落ち着き、反面マンネリ化したのか、自校生一名、他校生一名による十数回の万引犯行が校内で盗品を売りつけて初めて発覚した▼急遽教頭を中心に両校の担任生徒指導と協議を重ね、極秘に数日間深夜まで生徒と父兄を呼び出し、説諭と家庭での指導を厳しく言いわたしたが（これはどこの学校でもすること）、これだけでは不十分、生徒本人、父兄の骨身にこたえるためにも、教頭が先頭に立ち、教師、父兄も同伴、背水の陣の思いで各商店を謝罪して回った。叱られると思いきや、どの店主も「万引ぐらいで先生方がよくも恥を忍んで謝罪に来るなんて今時ありませんよ」と逆に感謝された。その後そうした非行は後を絶った▼この経験を生かして別の学校で同じケースが起こったが、同じ手法で生徒は立ち直った。こうした初発型非行は生徒自身、みんなも面白半分やっているという罪の意識が薄い。家庭にもそれがある。生徒、親の眼を醒まさせるためには時として教師は率先、体を張って取り組まねばならない場合がある。早期発見と処置の大切さは「ガン」と似ている。

信頼される旅づくり

先生たちとの修学旅行「いつまでもわすれません！」

生徒の心にあざやかにつづられる、ツーリストの修学旅行。

先生と、そして友と行った修学旅行。
かけがえのないふれあいが、よき思い出として
ひとりひとりの心に残る、そんな旅にしてあげたいですね。
ワールドワイドなネットワークを通じて、ツーリストがお世話する
修学旅行は、各方面より多大なご好評を得ています。
それぞれの教育方針に添った国内・海外の修学旅行なら、
なんなりと近畿日本ツーリストにご相談ください。

近畿日本ツーリスト　本社 〒101 東京都千代田区神田松永町19-2 ☎(03)255-7111㈹　営業所　国内242ヵ所（登録）　海外13ヵ所
運輸大臣登録一般旅行業第20号

生徒指導と特別活動・修学旅行 〈28〉

集団宿泊指導と修学旅行（3）

師弟同行による生徒理解と教師理解

二、集団宿泊指導の意義・ねらい

（前号まで　(1)子ども相互のふれあいによる信頼関係の深まり　(2)社会性の発達　(3)基本的生活習慣を身につける　(4)基本的生活技能を身につける　(5)自己とのふれあい）

(6)教師と子どもとのふれあい

①実態

ほとんどすべての教師の努力にもかかわらず、実際は必ずしも好ましい状況にないようだ。

最近ふえていると考えられる学校ぎらいや登校拒否、いじめの原因や背景を調べても、教師の子どもとのかかわり方が直接あるいは間接的な要因となっている例が少なくない。

また、いじめの事例をみても、日頃の信頼関係が乏しいために生徒が直接警察へ訴えてかけこんだり、教師が気づかないままいじめを見すごしたり、助長・促進したりして子どもを一層窮地に追いこんでいる。他山の石、とせねばなるまい。

集団宿泊指導や修学旅行は、子どもとの人間関係を回復したり、従来の相互関係やきずなを更に強めるためにも貴重な機会となるのではあるまいか。

②「師弟同行」の人間関係をベースに

「同行」とは本来、禅の言葉であり、同じ目標に向かって、互いに同列に並び、共に肩を叩きあいながら道を歩むことを意味する。

また、「同行」には、「無為にして化す」が続く。意図せずして影響を及ぼす、の意である。

ほぼ、同義のものとして「出会い（エンカウンター）」がある。実存主義哲学や来訪者中心カウンセリングの立場に基づく人間関係である。

これは、互に尊重しあい、ありのままの率直な人間関係を基本とするが、M・フーバーが、教育者が、かれが自然のままの全人的存在であるときにのみ、生徒の全人的存在に対して真の影響を及ぼすものである。かれの生き生きしたすがたは、相手の人に影響を及ぼそうなどとはつゆ思っていないときに、最も強く、最も純粋に影響を及ぼすことになるのである。」と述べていることからも、教師と生徒にかかわる「師弟同行」について同様と考えられる。

教師と生徒との人間関係こそ、この「師・弟同行」や「出会い」関係を基本とすべきことをあらためて確認すべきではないだろうか。

「教師」である前にまず同じ「人間」同士として接するために、入浴や宿泊を共にした文字どおり裸のつきあいができたり、清掃や奉仕作業などを共にできるなど、まさに集団宿泊指導の機会が効果的に生かされるだろう。

③「権威―尊敬―心服」の師弟関係

中学生期は発達段階の特徴として、親や教師からの心理的離乳や独立を図ったり、反抗的になりやすいが、その一方では依存の対象を求め、身近かな存在に自分のモデルやあこがれ、権威の対象を求めやすい。

自己をみつめ直すとともに、自己の在り方・生き方を模索する時期であるだけに、ヨコの受容共感の関係だけには満足しない。タテのきびしい人間関係を求めることになる。

また、学校は、心理治療機関や病院とは異なり、固有の教育目標を達成するためのタテの機関であり、意図的な人間形成を行うことになる。

したがって、中学校における教師と子どもの望ましい人間関係は、ヨコ関係の上に成立するタテ関係、暖かさに基づく厳しさ、母性原理と父性原理の調和であり、前述の「出会い」の上にこそ成立する「権威―尊敬―心服」の関係である。

宿泊指導の一ばんの特徴が、教師と生徒との共同生活であるだけに、他のどんな場よりも両者の接する時間が多く、このような人間関係が十分に成立すると考えられる。

④「生徒理解」と「教師理解」

集団宿泊指導は生徒理解の絶好の機会となる。

「生徒理解」のポイントは、生徒の目や心になっての環境理解であり、個性やパーソナリティについての理解である。

二十四時間起居を共にする日程を通じ、ふだんの教室ではみられない子どもの動きを観察し、子どもと語りあいながら、子どもの感じ方や心の動き、現在及び将来にわたる課題などの理解に努力したい。

特に大切なのは「理解イコール指導」の視点であり、教師が生徒の感じ方を共感しながら、明瞭化や要約の援助を努力する過程で、生徒は自分の問題点に気づき、それに取りくみ、解決への努力をはじめることができるからである。

更に重視したいのが、「生徒による教師理解」である。

最近の中学生による問題行動の例でも、教師の生徒への「思い」や努力が理解されないがため、たとえば対教師暴力を招くなど、残念な事態を生じていることが少なくない。

生徒による教師理解を深めるためには、日頃の学校場面で子どもに声をかける、生徒のことを真剣に考えて常に援助態勢にあることを、言葉にだして伝える、などの基本が大切なのだが、実際はなかなかむずかしい。

教師が自然なありのままの姿で自己を語り、生徒への思いや期待などを具体的に述べること、そのような機会の設定をできるだけ多く工夫することで、生徒の教師理解は一層深まることだろう。

〈ア〉

文部省教科調査官　高橋哲夫

夏の教職員研修旅行

北から南へ　21コース

三十年を迎えた全国教職員研修旅行（財全国修学旅行研究協会教育研修企画主催）。第一回の北海道研修団の実施以来延べ十五万人余の参加を得、以来研修方面も全国多岐にわたり、教職員の元気回復・自己研修の機会として教育委員会の後援をはじめ全国教育関係諸団体の協力のもと教育界の福祉運動として定着している。今夏の実施コースは北海道から沖縄まで二十一コース。研修内容も充実し、初めての方も二度目の方も、ただ見るだけの旅でなく、歴史・自然・文化などなどをかみしめる研修旅行にぜひご参加を。

夏季の募集要項（チラシ）は四月頃配布の予定、詳細は〒101東京都千代田区西神田二―八―七☎03―262―2932までお問合せ下さい。方面別コース概略は以下の通り。

見る旅からかみしめる旅へ

自然・歴史・文化・エトセトラ…

北海道方面＝道南を含む「一周ワイド」コースから最北端の島々を訪ねる「利尻・礼文」コースまで五コース。東北方面＝柳田国男著「遠野物語」の世界を講師と語り部の民話でつづる「遠野と陸中」コース、俳聖・松尾芭蕉の足跡を辿る「奥の細道」コースなど四コース。関東・甲信越方面＝高層湿原地帯「尾瀬の自然観察」コース、佐久平の古道にひそむ歴史をさぐる「信州・佐久みち」コース、人間・良寛の史跡を辿る「佐渡ヶ島と良寛」コースなど四コース。中部山岳方面＝立山の自然散策「立山黒部アルペンルート」コースなど。

関修委第五回研究協議会

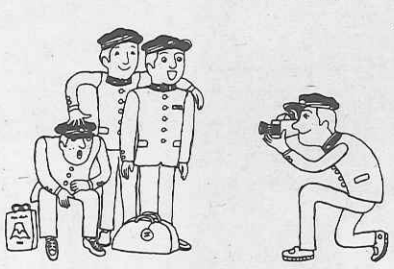
関東地区公立中学校修学旅行委員会（滝嶋壮三会長・川越市立川越第一中学校長）の昭和六十年度第五回研究協議会は、一月二十八日十三時から宇都宮市「くろかみ荘」で開催された。

大山事務局長の開会の辞、滝嶋会長、白滝参与、高藤元会長の挨拶の後、高橋運営委員長を議長とし、議事に入った。

午前中の研究発表者片山悦男氏から、今年の修学旅行は校長の下、全職員の一致団結の賜であると述べ、會澤委員から非常に有益な内容ある研究会であったと謝辞が述べられ、小林理一校長からは昨年の群馬の発表会が大へん勉強になったとの発言があった。

企画立案の滝田校長から①時期の問題、②発表者の人選、③企画の活性化、④PRなどについて反省と課題が示された。

ついで第六回研究協議会の予定について報告があり、滝田運営副委員長の閉会の辞で、十四時三十分終了した。

楽しい修学旅行を、
より安心
出来るものに
TOKIO MARINE

「国内旅行傷害保険」
修学旅行用をおすすめします。
東京海上火災保険株式会社
本店　東京都千代田区丸の内1-2-1　☎03-212-6211(代表)

眼下に芦の湖、ひろがる湖尻高原。
静寂のなかに憩いのひととき―。

〈修学旅行の専用旅館〉
〒250-05 神奈川県箱根町湖尻高原
箱根高原ホテル
電話0460－4－8595(代表)

さわやかな奥日光の高原で素晴しい
修学旅行の一夜をお過し下さい。

そのほか
冬期はスキー教室
夏期は林間学校
奥日光高原ホテル
〒321―16
日光市湯元2549―6
(TEL) 0288―62―2121代表

防炎布団リース
●御指導先
京都市消防局
近畿日本ツーリスト㈱
販売もいたします。
防炎寝具製造認定工場
ムラタ寝具工業所
〒612　営業所　京都市伏見区京町5丁目77－7　☎075(601)5371(代)
〒610-01　工場　京都府城陽市観音堂甲畑57　☎07745(2)0191

京都市火災予防条例改正により
―防炎寝具の使用―

☆防炎寝具の使用に関する規定を盛り込んだ京都市火災予防条例改正案が昭和59年11月29日市議会で可決制定され、同年12月13日に公布、即日施行となった。

（防炎具の使用）

第46条の5　次の各号に掲げる防火対象物又はその部分において使用するふとん毛布、まくら、敷布、その他の寝具類は、防炎性能を有するものとするように努めなければならない。

(1)　令別表第1(5)イ並びに(6)項イ及びロに掲げる防火対象物
　　((5)イ旅館・ホテル又は宿泊所)

(2)　令別表第1(16)項イに掲げる防火対象物で、前号に掲げる防火対象物の用途に供する部分